



説教要旨「でしゃばりな一番弟子」

マルコによる福音書 8章 27～33節

「多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活する」(31節)。

イエス様はもともとご自分が苦しみを受け、殺されることを意識しておられましたが、弟子たちにそのことをはっきりと伝えたのはこの場面が初めてです。「あなたこそメシア（救い主）です」と告白した弟子たちへ、「あなたたちの救いは、こうしたことによって成し遂げられる」と告げていると言えます。

すると、弟子であるはずのペトロが、師であるはずのイエス様をわきに連れ出し、諫めはじめます。イエス様が間違っていると考えた彼は、イエス様が進むべき正しい道へ導こうと考えたのです。つまりペトロは、救い主がどのような方であるかを自分は知っていると思っているのです。何と大それたことでしょうか。けれどもわたしたち信仰者は、そうした誘惑にいつもさらされているのです。神様の恵み、イエス様による救いを理解したような気になって、実は自分の勝手な思い込みに過ぎないことを、神様から示された真理だと勘違いして、今度はそれに捕われてしまう、ということが起るのです。

聖書を読んだり、説教を聞いたりしていろいろなことが分かっていくこと、イエス様の十字架の意味や、神様の臨在を理解することは素晴らしい喜びです。しかし、いつしか自分が理解したこと、把握したことに固執し、「自分は神の御心を正しく理解した」などと思い上がり、神に代わって周囲の人々だけでなく、イエス様までも裁こうとしてしまうのです。

そんなペトロのことをイエス様は「引き下がれ」(33節)と、厳しく叱りつけます。この言葉を直訳すれば「私の後ろに廻れ」となります。イエス様の後ろを歩み、イエス様についていく、それが弟子としての彼本来の姿であり、イエス様の後ろこそが彼本来の立ち位置なのです。

どんなに聖書を勉強したとしても、どんなに高名な説教者の言葉をたくさん聞いたとしても、わたしたち人間には神様の御心を完全に知り尽くすことなどできません。ただイエス様の後ろにつき従って歩む中で、主が進むべき道へと導いて下さるのです。

(2022・3・20 説教者：稲垣真実)